

# 地域にとって求められる福祉施設とは —実践の立場から—

日本福祉施設士会 広報委員長  
社会福祉法人慈楽福祉会  
特別養護老人ホーム瀬野川ホーム施設長 後藤忠啓(老-5期)

## はじめに

日本福祉施設士会会報「福祉施設士」の平成22年度特集テーマは「地域にとって求められる福祉施設とは」であります。会員の方々がそれぞれの施設で取り組んでおられる事例を、様々な切り口で紹介していただきたいと思います。今回の特集が、会員の皆様の今後の活動に資することができたら幸いです。

地域と施設の望ましい形は、相互信頼と公的ならびに私的な相互有益関係にあると思っています。私からは、施設の行う事業を通して良い

関係を保持している事例をご紹介したいと思います。

## 法人・施設紹介

当慈楽福祉会は、昭和49年(1971年)1月に法人認可を受け、昭和50年6月、当時としては珍しいかと思いますが、特別養護老人ホーム「瀬野川老人ホーム」(定員50名)と養護老人ホーム(定員50名)の合築施設で事業をスタートしました。

爾来35年余り、「瀬野川ホーム」(平成11年4月に改称し、「老人」を除きました)では700名のお年寄りの方々がお亡くなりになりました。正月であろうと深夜であろうと、お年寄りの容態が悪化すると、いつも施設にかけつけ、多くの方の最期に関わらせていただきました。

当初、私は民間企業に勤務しておりましたので、仕事を終えた後、施設で週4日程度宿直勤務しておりました。当時は、夜の見回りの時、「老人ホームは何と静か(ほとんどのご利用者様は眠っておられました)で、さびしいところだな」と感じておりました。

ところが、近時はどうでしょうか。認知症等様々な高齢者がおられ、24時間、何とにぎやか(?)なことでしょうか。大きな時代の変化を感じます。

## 社会福祉法人 慈楽福祉会の事業概要

特別養護老人ホーム瀬野川ホーム	定員 100名
養護老人ホーム瀬野川ホーム	定員 50名
デイサービスセンター慈楽の里	定員 25名
ケアハウス安芸中野	定員 50名
特別養護老人ホームあきなかの	定員 20名
短期入所施設あきなかの	定員 10名
デイサービスセンター安芸中野	定員 30名
デイサービスセンターれんげ	定員 25名

### 訪問介護事業

地域包括支援センター

居宅介護支援事業所

老人保健施設ピア観音 定員 100名

デイケアセンターピア観音 定員 30名

居宅介護支援事業所ピア観音

小規模多機能型居宅介護事業 定員 18名

デイサービスセンターじらく房 定員 12名

## 法人・施設と地域との関係

さて、過去の多くの施設は、創始者の理念と熱意によって設立されたもの、あるいは、行政の働きかけ、団体などの要望によって設立されたものが多かったのではないかと考えます。施設が地域に乞われて設立されたものがどれだけあったでしょうか。しかも、住宅地を少しはずれた閑静な場所に立地していたものが多くありました。

そこでは、入所者への「処遇」が粛々に行なわれ、地域との繋がりを必ずしも必要としなかったようですが、時代の変化と共に、かつては「施設開放」、最近では「地域貢献」というテーマのもとに議論が行われてまいりました。これも業界の大きな変化であります。

過去の多くの社会福祉法人は、創始者となる理事長が「地域密着」人でありました。まず、人を通しての地域一体化が図られました。これらのことは当時では当然のことでありましたし、大きな福祉推進の力ともなって、日本の社会保障を担っているという、今も変わらぬ強い自負がありました。

今後の社会福祉法人のあり方については、折々に議論のあるところではありますが、時代の変化は、現在のままの社会福祉法人の存続は許さないのでしょう。言うまでもないことですが、社会福祉法人は公益性、安定性、継続性、安全性、地域性、非営利性を有しております。ゆめゆめ営利を目的として事業を始めた方は無かろうと思いますが・・・。

では、施設の生い立ちが地域の要望でないならば、まず専門的な本業を通じて、地域の方々に評価されるようにならなければなりません。加えて、本業以外で、地域にとって有益な施設でなければなりません。

## 地域防災活動

当法人と地域との関わりとしては、顕著な活動として、地域防災活動があります。

活動を推進する地域防災会議「天峯災害対策連絡協議会」は、瀬野川ホームにおける夜間の火災に対して施設を応援するために、施設から地域に呼びかけて、昭和62年（1987年）12月に結成されたものです。「天峯」とは、施設の背後にある山の俗称で、当協議会は、この山裾の3地域の町内会・自治会と、当施設のあわせて4者により組織され、消防署も参画しています。

当初は、活動時の「事故保障」が大きな論点となり結成が危ぶまれましたが、最終的には「目的」の1点に関係者の皆様の思いが結集して、結成

訓練の様様



に至りました。本当にありがたいことでもあります。

以来、春と秋の年2回の訓練のほか、年1回隔年で行う普通救命救急講習と市防災センター視察研修、年1回の懇親会を実施しています。各訓練の参加者は、いつも100名程度です。

訓練の前には、毎回打ち合わせ会が行われます。不備な内容があれば厳しい意見が出ることもあり、「万一の時には地域が応援してやるぞ」という熱意が伝わってきます。

なお、当協議会の提案により、施設にサイレンとスピーカーが設置され、非常時の連絡等に活用しています。

特筆すべきは、秋の訓練が夜7時から開始されることです。

ある年、背筋の寒くなるような夜間訓練がありました。消防車、救急車が赤色回転灯を点灯して、サイレンを鳴らしながら施設に到着し、施設に向けて放水したときには、訓練とはいえ、「これが実際の火事だったら・・・」という怖さを感じました。

夜間を想定した訓練は多くの施設で実施されていると思われませんが、地域と共に夜間訓練を行っているところは少ないと思います。これが実施できることは大変心強く、地域の皆様のご理解には深く感謝いたしているところです。

## 盆法要・盆踊り

瀬野川ホームには、もう1つ、地域との繋がりの強い行事があります。それは、盆法要ならびに盆踊りです。

打ち合わせに始まり、準備から後片付けまで、自治会・町内会・子ども会など多くの地域の方々と一緒になって行うものです。音頭出しや太鼓たたきも、施設職員と地域の方が一緒に行います。

盆法要



もちろん、その夜の打ち上げも一緒に行います。

地域の町づくりにも効果的で、地域と一体となった施設になってきているのではないかと考えております。

## おわりに

施設が地域に必要とされるにはまず、地域の「人」と施設の「人」が繋がることが大切です。本業だけが良くても不十分です。例えて申すならば、美味しい鰻丼には美味しい漬物も必要なのです。

当施設では、行事に地域の方々が参加されることはもちろんのこと、近隣農家の生産意欲高揚のため野菜や米を直接購入しております。また、今年から、時間に余裕のある中高年の方と一緒に、里山を活性化するために竹炭焼きを始めます。さらに、法人主催のゴルフコンペを年2回行います。

これからも地域と共に、「明るく、楽しく、元気良く」をモットーに、地域活動を行っていきたいと思っております。

地域住人に愛される施設、信頼される法人を目指してまいります。